

島根県隠岐郡海士町に移住して3年…必要だったのは「決心」だった。
『俺、隠岐に立つ。～30歳からの島暮らし。好きなことをして生きてもいいんだ～』

株式会社ブックウォーカー（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：安本洋一）が展開するコンパクトな電子書籍専用レーベル【カドカワ・ミニッツブック】は『俺、隠岐に立つ。～30歳からの島暮らし。好きなことをして生きてもいいんだ～』の配信を開始しました。

■横浜から島海士町へ。出版社から漁協へ。丁寧に暮らすライフスタイルはこうして手に入れた

30歳を迎えたとき、言い様のない恐れを感じました。
このままじゃ、笑って死ねない。
やりたいこと一杯あるのに、一個もやっていない。
これはいったい誰の人生だ？（中略）
そんなわけで、移住準備真っ最中です——本文より

都会で生まれ育ち、出版社で仕事をしていた著者は30歳になって考えた。
それなりに結果も出してきた。でも、このままでいいのか？
行ってみたくつかの島、仕事を通じて知った人々、自分なりのリサーチ、妻との話し合い。
2010年のゴールデンウィークに初めて海士町を訪れた時、島に魅せられる。
5年以内に移住できたらいいね、と帰りのフェリーで妻と話していた。

キーワードは「海」。転職サイトでヒットしたのは「海士町漁協」。
面接から2カ月後、初上陸から5カ月後、妻と一緒に移住した。2010年9月のことだった。

朝7時過ぎに漁港に向かう。水揚げされた魚をチェックし、出荷の手続きをする。
魚の捌き方を学び、日本の漁業の未来を考える。
庭のハンモックで昼寝をし、最近ではシーカヤックにハマっている。
海の近くで丁寧に暮らす——必要だったのは「決心」だった。
島の旨いもの歳時記も要必見！【読了時間 約50分】

【目次】

私たちが島へ渡った理由

島暮らしのある一日/島へ渡った理由/シンプルな社会/小さな組織とスキル



決心

海士町を知ったきっかけ/初上陸/キーワードは海/会社辞めます/親に伝えます/引っ越します

海士町ってこんなところ

島の概要/島という組織/仲間たち/島の漁業

丁寧に暮らす

島の旨いもの歳時記/おすそわけの文化/休みの日の遊び方/一番おいしい食事



島の漁業に未来はあるのか

漁業の課題3点セット/漁業者の高齢化と後継者不足/燃油の高騰/魚価の低迷/旨い魚が食べられなくなる

藤澤裕介 ■ 1979年神奈川県生まれ。出版社勤務を経て、2010年9月より海士町で島暮らしを始める。海士町漁業協同組合に勤務。



『俺、隠岐に立つ。』

～30歳からの島暮らし。好きなことをして生きてもいいんだ～』

藤澤雄介・著

配信開始日：2014/08/14

想定読了時間：50分

希望小売価格：400円

公式サイト：<http://bit.ly/Y3sVXo>

■スマホ時代のライフスタイルにベストマッチの電子書籍【カドカワ・ミニッツブック】

「カドカワ・ミニッツブック」は30分前後で読み切れる手頃な分量が特徴の電子書籍専用レーベルです。現在、KADOKAWAグループの多彩なジャンルから130タイトル以上を発売中です。

ミニッツブックというレーベル名には「分単位で読める本」という意味が込められ、表紙には「〇〇min」と想定読了時間の目安が明記されています。通勤・通学の「スキマ時間」に手軽に読めて、満足感のある内容をお届けします。KADOKAWAの直営ストアBOOK☆WALKERをはじめとする、スマートフォンや電子書籍端末に対応している各電子書籍ストアで絶賛発売中です。

カドカワ・ミニッツブック公式サイト：<http://minutesbook.jp>

カドカワ・ミニッツブックCM動画：<http://www.youtube.com/user/minutesbook>

※ミニッツブック無料カタログも各電子書籍ストアで絶賛配布中です！

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社ブックウォーカー デジタル編集部担当：松山 公式サイトURL：<http://minutesbook.jp>

Tel: 03-5216-8310 Fax: 03-3238-5725 Mail: support@mail.bookwalker.jp